

各部会における協議内容の報告

ワークライフバランス推進部会	・・・・・・・・・・・・	1
若い世代部会	・・・・・・・・・・・・	3

※結婚・子育て支援部会については、台風 10 号の影響により、開催中止。

1. 高知県の人口の現状及び少子化対策の取り組みについて**(1) 「共働き・共育て宣言」について**

- ・男性がパートナーとして家事育児を担っていくという方向性が、本当の少子化対策にしていくためには必要なことであると考えている。また、今回の宣言が「今までの働き方を見直す(常識を考え直す)」上でのものだというメッセージも必要ではないかと思う。

2. 育休取得の推進に必要なこと、各団体の現状及び今後の取り組みについて

- ・各医療機関等を回り、面談を通して、ワークライフバランスの推進を進めていて、育児休業の取得等について助言を行った実態がある。男性看護職もしくは他の職種についても、「働き方」の取り組みをしっかりとやらなくてはいけないと思った。今年度はしっかりと取り組みにいかしていきたい。
- ・それぞれの学校において、目標設定の面談や管理職との面談等の場面で、(出産を控えている)男性職員などに声掛けをしたり制度の周知等の取り組みを行っているというような状況。
- ・長時間働かれているため、家庭で家事をする時間も限られ、子育てに向く余裕がなかなかなくなってくるということは、現場で保護者の方から感じるところである。社会全体で、労働時間の削減、省略化なども検討していただけたらと思う。また、男性の育休も、期間やどのような目的で取得するかといったところも浸透していかなければならない。
- ・高知県は小規模事業者が多く、1、2人休むだけで負担が増えるということがあるため、金銭的な面も含めて、改善や見直し、支援が必要であると感じている。少子化対策は、子育て、産業の部分、女性活躍の部分、総合戦略的な視点からの紐解きが必要ではないかと考えている。
- ・事務局の職員が、1年間育休を取るケースが出てきて、業務配分や業務のさび分け等を見直すきっかけになった。また、今年度男性職員が育休を取得するケースもあり、この機会に考え方の整理や意識の整理といったことが進むかなという感想を持っているところ。
- ・育児休業取得者の仕事を補完するための人を充てる仕組み(派遣事業など)や育休中の賃金を100%補填するなどあれば、企業側はもっと取り組めるし、労働者側は安心して育休を取得できるのではないかと考えている。共働き・共育て共同宣言のメインが「男性の育休取得促進」となっているが、(仕事のやり方を変えるための)残業時間の撲滅というのも1つの取り組みなのではないかと思う。
- ・夫婦の家事のバランスのあり方、子育てに関わることによりその後の夫婦関係や親子関係にいい影響があるといった内容(海外事例を含め)、企業側が業務の属人化を解消、体制作りを行うことで全体のスキルアップにも繋がって生産性も引き上がっていく、等の内容で講演会、学習会を行いながら、企業との交

涉や協議に活かしていくといった取り組みを行っている。

- ・男性社員が(子どものために)看護休暇を取得することも頻繁にある。今年の春から年次有給休暇の時間単位取得を制度化し、男性社員からの申請も出てきている状況。育児休業は本人等に働きかけており、実績は出てきている。今後、育休取得者の所属部署の同僚に「子育て応援手当」を支給し、職場全体で子育てを応援する雰囲気を作っていけないか構想している。
- ・若い世代を中心に数年前から男性が育児休業を取るようになってきている。女性が年単位で取得するのに比べて、男性は1か月単位(2、3か月)での取得が多い。時間単位の年次有給休暇や看護休暇の制度を男性にも促していきたい。
- ・今回初めて、男性社員が2回に分けて育休を取得するケースが出てきた。会社は繁忙期に復帰してもらえる、取得者もその時期は仕事をしたいという部分がマッチングしたため、会社としてもとても助かると実感しているところである。
- ・面談や1on1の場を通して、取得希望の場合は、制度の説明動画等を一緒に見て金銭面や制度面などを共有しながら、本人と話し合っている状況。また、育休終了前に再度面談をして、必要に応じて育休期間の延長等も行っている。負担が集中しないために、「スキルの平準化」により、全体で業務負担を軽減していくことができないか今後考えていければと思う。
- ・町でも、徐々に育休を取得する環境が整いつつあると感じている。ただ、同僚に負担がかかってしまうということから、長期休暇はとっていないのが実態。これから業務の仕方、働き方を見直し(誰でもその仕事ができる形にするなど)していかなければならない。
- ・人は少ないのに仕事が多すぎるというのが一番の根本にあるため、この部分を考えないといけないと思う。「お父さんにはその個人の家庭、生活がある」という発想を、上の立場の方々に働きかけていかなければならない。家庭、生活と仕事両方を大切にしたいという人も確実にいるため、知識の働きかけや若い世代にライフプランを考えていくような機会を多く持たせるということも大事であると思う。
- ・(所属団体では)高齢化が進んでいるが、4月に若いお母さん3人が訪ねてこられ、「高知県の郷土料理や長年培ったスキルを与えてほしい、(自分たちは)子どもたちの英語力を育てたい」と連携したいとの申し出があった。地域を支えていこうとするエネルギーがたくましくもうらやましくもあり、安堵した。

<高知労働局からの情報提供>

- ・国では、共働き・共育てとして「育児期における柔軟な働き方の推進」を進めている。今年度「両立支援等助成金」により、中小企業の方に対して一定助成する制度を構えている。また、育児・介護休業法と次世代育成支援対策推進法が改正となり、その中でも柔軟な働き方を実現するための措置がとられている。詳細が決まり次第、各地域において説明会を開催していきたいと考えている。

【若い世代部会報告】

1. 事業（座談会及び異業種交流会）

令和6年度の若い世代部会の事業として、県内在住の若者の「出会い・結婚」に関する等身大の考えを知事らと語り合う「座談会」を開催するとともに、若い世代の交流の機会づくりとなる異業種交流会を実施する。

2. 事業報告（座談会）

【目的】

県内在住の若者が「出会い・結婚」に関する等身大の考えについて、知事等と語り合い、今の若者のリアルな声を届けることで、若者が考える課題やニーズを共有し、今後の少子化対策の施策にいかす。

【開催日時・会場】

令和6年9月11日（水）午前11時～12時 知事公邸

【参加者】

県民会議側（3名）

- ・高知県商工会議所連合会会頭 西山 彰一
- ・高知県知事 濱田 省司
- ・高知県市長会会長 桑名 龍吾（高知市長）

県民参加者（8名）

- ・県内在住の20代から30代の独身者及び既婚者（女性4名 男性4名）

【司会進行】

- ・高知県青年団協議会 監事 森岡 千晴

【テーマ】

「20代前半」と「20代後半～30代」の各世代の生の声を通して、『行政を含め、我々にできることは何か？』について知事等3名と意見を交わす。

【内容】

20代前半の方々からは出会いに対して前向きであること、祭りや地域活動など共通の目標に向かって一緒に活動する場での自然な出会う人や人とのつながり役が必要であること、等が語られた。一方、20代後半～30代の方々(独身)からは、自身の経済状況(収入面、奨学金)による結婚への不安、独身への焦り、20代後半の既婚者からは、出会うや結婚に対して前向きな気持ちを持つべき、

といったことが語られた。

これらの若者の声に対して、県民会議側の3名からは、高知で結婚・子育てする良さ、高知の人(特に男性)の魅力、日常の中での出会いや縁の広がりの大切さについて、前向きなご意見やアドバイスがなされた。

3. 今後の事業計画（異業種交流会）

【ねらい】

- (1) 若い世代の出会い・交流の場をつくる
- (2) スポーツ等を通じて自然なコミュニケーションをとれる場を提供し、継続的な交友関係の維持につながるようにする

【内容】

- ・運動が苦手な人でも一緒に楽しめる社会人運動会を開催し、夜にはB B Qで交流を深める
- ・高知県法人会連合会（こうち出会いサポートセンター）との共催により、異業種交流イベントとして開催する

○日時：令和6年11月23日（土・祝）13時半～20時(受付13時～)

○場所：高知県立県民体育館、高知大丸「バーベキューパラダイス」

○対象：20歳～おおむね40歳までの独身男女

○現時点での競技等内容

参加者の交流時間を確保できるような種目、時間配分にする。

①大玉転がし&小玉運び

②ミュージック玉入れ

③ジェスチャーゲーム

④大縄跳び

⑤コミュニケーションタイム

⑥選抜リレー

◆案内チラシの配布、配信を行い、参加者を募集

- ・若い世代部会員を中心に対象となる方に声かけを行う。

募集フォーム：<https://forms.gle/GRhqEEBJehSrLQdX6>